

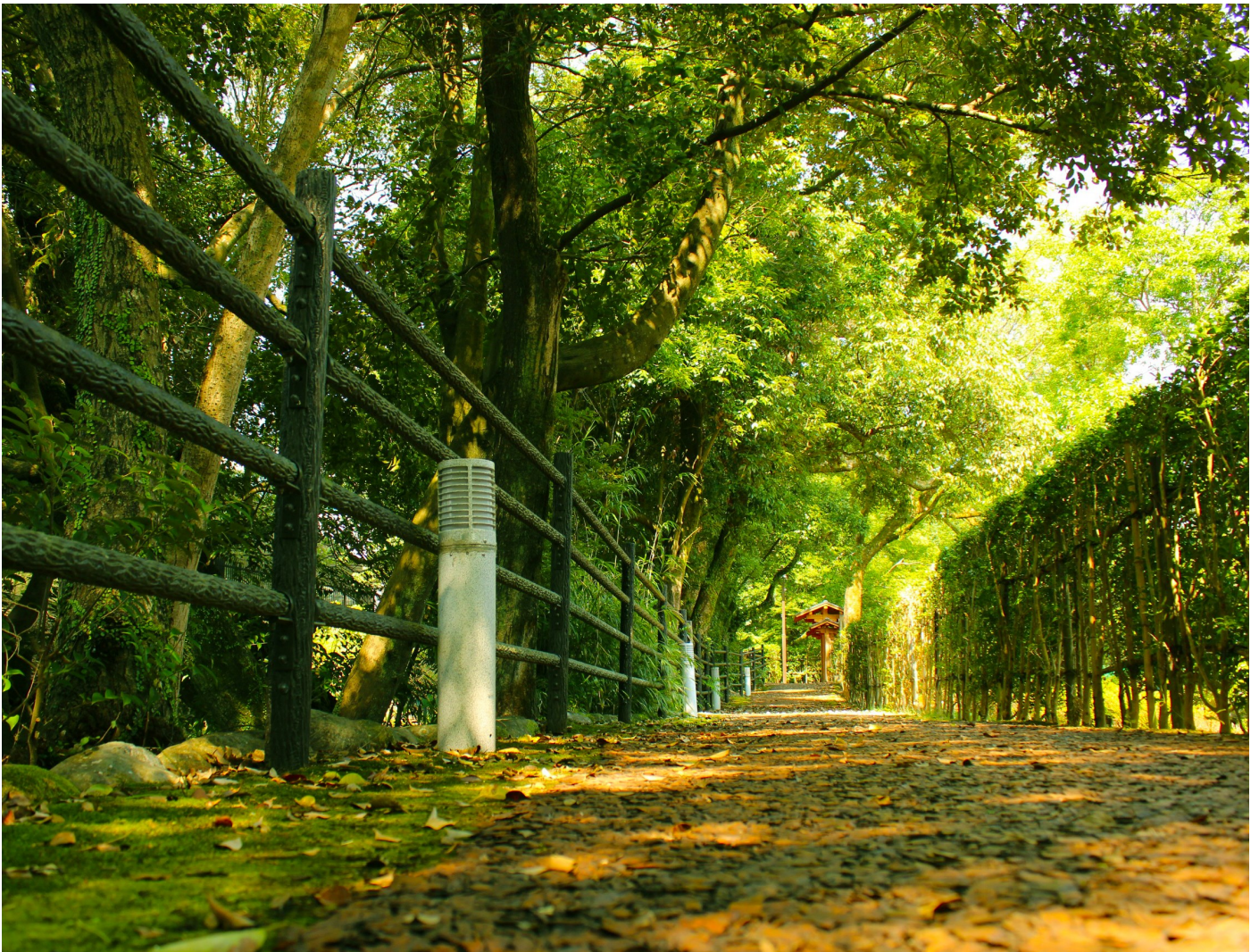
# 美歴だより

## 諫早市美術・歴史館だより

館長のつぶやき	2
関係者以外立入禁止	3
民具の部屋	4
いさはやの歴史	5
美術の時間	6
美歴 hand made club	7
お知らせ	8

CONTENTS

Isahaya  
Museum of  
Art & History  
Museum News  
Vol.8



水と緑の文化の路（みち）・高城回廊

## 館長のつづやき

### 記録する・保存するとは

最近、各種資料の保存が、いかに大事であるかを改めて痛感した。本美術・歴史館で、いわゆるのんのご祭りの歩みを紹介するミニ展覧会を企画したが、のんのご祭りに関する資料があまり保存されていないことが分かった。見つけ方が悪いと言われてしまえば反論の余地もないが、諫早の各種イベント、とりわけ祭り等に関しては、いかなる部署・機関が保存するのだろうか。ともかく諫早商工会議所、諫早青年会議所（JC）を訪ね、諫早の祭りに関する資料について尋ねた。具体的には、何時、何という名称で、何処で、何が行われたのかについて知りたい。そこで解ったことは、祭りに関し系統だった整理がどこでもなされていなかったことである。

今回は、まずは祭りのポスター、チラシを集めることにした。幸い「のんのご諫早まつり」の第1回（平成10年）からのポスターの大半が諫早商工会議所に保管されていた。しかしそれ以前の祭りに関しては発見できなかった。青年会議所でも「どんどん大会」「のんのご祭り」に関する現物資料はほとんどなく、記録写真、新聞報道記事などが主であった。むしろ市民の方々から、うちわ、ステッカー、手ぬぐい、スタッフ用Tシャツなどが作成されていることを教えられた。諫早の大きな行事「のんのご諫早まつり」でさえ、時が経つとくその時の事実>

を検証することが意外に難しくなることを知った。行政資料ならともかく、民間のこうした催事の記録は、誰かが頑張らねば後世に伝わらない恐れがある。記録すること、現物を保存する重要性を喫緊の課題にしたい。でも当事者からは、場所と人があればよいのだがと言われそう。問題は、多分、保存スペースの制限であろう。もしかすると、保存価値に対する認識の問題であろうか。

それにしても、各種資料を見る中で、作成年月日や作成者の氏名等が無記載のものが結構あることも気になった。内容面で貴重な情報と思うのに、誰が、何時、何のために作成したのか不明な資料は、信頼性の問題があり残念だ。特に、行事・催事等についての記録は、多くの場合、最終報告は記録として残されるが、最も肝心な中間段階の討議記録・資料があまり残されていない。当然、制約もあろうが、できるならばプロセス、俎上に上がったアイデア等も、後の人のため残しておきたいものだ。

以前、某国会議員から「名刺交換した際、その名刺には年月日と会った理由を一言書いておくといいよ」と言われたことを思い出す。一寸のメモでも「宝」になりそうだ。

（館長・鈴木勇次）



季刊

# 関係者以外立入禁止

Staff Only

その3

## 「燻蒸ってなあに??」

美術館や博物館は、絵画や文化財を展示するだけではなく、大切な文化遺産を保存する使命を担っています。紙類や絹でできた絵画や文化財は虫の大好物。また、黴（カビ）がついているのを知らずに館内に搬入してしまうことも……。

そのような虫の被害にあわないために、新しい資料が届いたら、埃や虫がついていないか確認した後、丸ごとビニール袋に密閉し窒素で燻蒸処理を行います。燻蒸することで、黴や内部に潜んでいる幼虫や卵を殺虫・殺菌するのです。

ちょっと残酷?いえいえ、作品を守るために必要なことなのです!



★資料の大敵! 有害生物たち★

紙類…シバンムシ、シミ、ゴキブリ、  
チャタテムシ、シロアリ

木材…シロアリ、シバンムシ、  
ヒラタキクイムシ

絹……カツオブシムシ、イガ、コイガ、  
シミ、ゴキブリ

人知れず稼働する燻蒸器『エアG』君  
ガンバレ!!



(松本恵美)

# むかしの道具 と ひとのちえ

たとえば、「食の道具」のおハナシ。

## まな板・羽釜・弦鍋

むかしの「食の道具」をみてみよう。

### PICKUP

#### まな板



食材を包丁で切り分けたり、整えたりする時につかいます。写真のまな板は本来、魚をさばいたり調理するためにつかっていたもので、脚をつけてあります。まな板の「まな」は魚のことです。調理の際に動かないよう銀杏やサワラなど重い木材を厚くとった作りです。現在は魚のほか野菜などを切り分ける板もまな板と呼んでいますが、野菜の調理にはまな板ではなく蔬菜板（そさいばん）があり、切り板（きりばん）と呼んで区別してつかっていました。

### PICKUP

#### 羽釜 (はがま)



湯をわかしたり、飯を炊く道具です。羽釜の羽は釜の周りに付けた鰐(つば)のことです。つまり、釜に鰐(羽)をつけた釜ということです。これは竈(かまど)に据え付けた大きな鍋を釜と呼んでいたため、それと区別して羽釜と呼ぶようになったものです。羽釜は、羽をつけてあることで竈に据えたとき、火が竈の外にでることなく、火力を効率よくつかえます。

### PICKUP

#### 弦鍋 (つるなべ)



鍋には金属製のほかに石製、土製のものがあります。写真の鍋は家庭でよく見かけたもので、味噌汁など汁ものを作るのにつかう金属製の弦鍋ですが、これで飯を炊いていたところもありました。囲炉裏で自在鉤にかけて使うことが多く、昼食どきともなると、囲炉裏の火をおこし、水とイリコ（小さなイワシを乾燥させたもの）を鍋にいれ、季節の野菜で味噌汁をつくっていたものです。

## 諫早家の御屋敷

江戸時代、諫早家の主な御屋敷は諫早・佐賀・長崎にありましたが、御屋敷に関する史料はほとんど残っていません。

### 諫早と佐賀の御屋敷

諫早家御屋敷(現諫早高校)には、部屋が95、中庭が13ありました。現在は御書院(元の場所から移動)と池しか残っていません。屋敷は諫早家の住居と家臣などが執務・謁見するスペースに分かれていました。諫早家領主が屋敷に一年に何日住んでいたかというほとんど居住しておらず、一年の多くは佐賀城内にある諫早屋敷(現佐賀西高校・佐賀市内)に居住し、佐賀城に出仕していました。いつ諫早の諫早屋敷に居るかという、藩主・幕府役人などが諫早領内を通行する際の出迎え・見送り、長崎港警備などのみで、滞在日数も数十日程度で佐賀城内の諫早屋敷に帰るということが幕末までくり返されていました。

### 長崎の御屋敷

ミヤジマ五島町パーキング(長崎市五島町)の側に「致遠館跡」碑が建っています。ここにはかつて諫早蔵屋敷がありました。慶応3年(1867)、鍋島直正公(10代藩主)が藩学稽古所を設け、アメリカ人宣教師のフルベッキ

などが教師をつとめました。翌年、藩学稽古所は致遠館と改称され、明治2年(1869)に廃校となるまで、副島種臣や大隈重信などが学びました。その後、明治43年(1910)宮島醤油(佐賀県唐津市)が諫早蔵屋敷を買い取り長崎支店としますが、老朽化により昭和41年(1966)に解体されました。諫早家の家紋「上り藤」が施された鬼瓦はその後、宮島醤油より致遠館高校(佐賀市兵庫北)に寄贈されました。

### 御屋敷と高校

現在、諫早と佐賀の御屋敷は諫早高校・佐賀西高校の敷地に、長崎の蔵屋敷の鬼瓦は致遠館高校に、と奇しくも高校と関わりがあります。



昭和10年(1935)頃の御書院と池

Art of Time

## 美術の時間

### 悠久の刻

牧野宗則 makino munenori

Size 34.8×49.6cm

Date 1985（昭和60）年

Medium 木版 越前手漉鳥の子紙



版画家の牧野宗則は、木版画摺師から伝統木版の技術を学び、制作で浮世絵版の技術を応用し、「板ぼかし」「刷毛ぼかし」「空摺り」「きめだし」「雲母摺り」といった技法を自由に組み合わせ、絵・彫・摺の三工程を一人で行っています。

1984（昭和59）年に諫早湾を訪れ、刻々と変化してやまない海の様子に魅了された牧野は、その後も度々諫早に足を運び、この作品を含めた有明海シリーズを制作しています。

1940（昭和15）：静岡県静岡市伝馬町生まれ

1989（平成元）：第1回川村賞受賞

2003（平成15）：文化庁長官表彰を授与

2004（平成16）：版木作品をブロックス・アートと名付け発表

2009（平成21）：富士山静岡空港ロビー陶板壁画《いのちの花》制作

『一北斎・広重からの華麗なる展開一第3回牧野宗則展』太田記念美術館

（百崎恭子）



- 材料：針金（太さ0.3mm、0.55mm、0.9mm 長さ約30cm～35cm）  
 ビーズ（パール直径6mm、10mm、ファイブリツユ 6mm、丸大ビーズ）  
 ■道具：ラジオペンチ、ニッパー、芯になるもの（マジックなど）

★お好みの太さ、色の針金とビーズを使っているんなアレンジを楽しんでください。★

■作り方：

応用



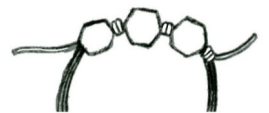
①太さ0.55mmの針金をビーズの穴に通す。



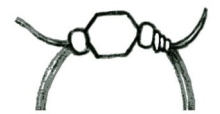
②指の太さに合うサイズで針金を3～4回巻く。



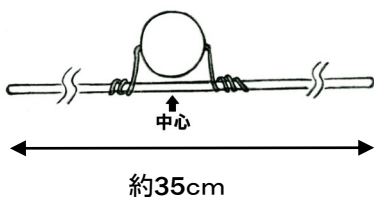
③サイドに2～3回巻きつけて切る。



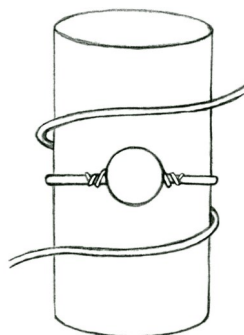
○ビーズの間に巻きつける。



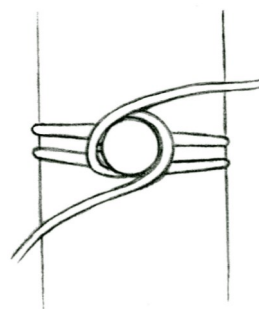
○大小ビーズを組み合わせる。



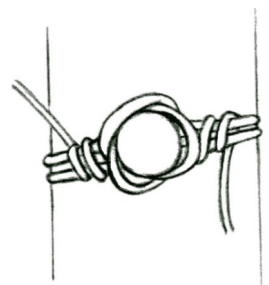
①太さ0.9mmの針金の中心にパールビーズ（10mm）を太さ0.55mmの針金で巻きつける。



②図のように芯になるものに巻きつける。



③図のように交互に2回半巻きつける。



④パールに巻きつけたらサイドに2～3回巻きつけて切る。

## 館企画展

## 野口典男作品展



諫早市出身の画家、野口典男の作品展を開催しています。今年5月に遺族から寄贈された作品の中から、初期の静物画や東京の風景画、長崎の天主堂のある風景画など28点を展示しています。

期 間／～10月18日(火)

午前10時～午後7時※最終入場18:30

※10月12日(水)は臨時休館、18日(火)は開館

会 場／美術・歴史館[2階企画展示室]

観覧料／無料

## 館講座

## 史跡探訪バスツアー

と き／11月20日(日)午前9時～午後4時

コース(高来・小長井方面)

美術・歴史館→①善神さん古墳→②神津倉権現神社→③市杵島神社→④小長井のオガタマノキ→長里グラウンド(昼食・休憩)→⑤長戸鬼塚古墳→⑥岩宗墓石群→⑦田原の六地藏・田原神社→高来支所(休憩)→美術・歴史館

集合場所／美術・歴史館駐車場(午前8時50分)

定員／30人(申込多数の場合は抽選)

その他／昼食持参、小雨決行、動きやすい服装、参加費100円(保険料)

※バス下車後目的地まで歩く史跡もあります。

申込方法

ハガキ、ファクス(24-6633)またはメール(bireki@city.isahaya.nagasaki.jp)に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、11月7日(月)までにお申し込みください。

※当日消印有効

申込・問い合わせ先

〒854-0014 諫早市東小路町2-33

諫早市美術・歴史館(Tel.24-6611)

## 編集後記

1日3往復(市役所との事務連絡で)。木漏れ日が、ライスシャワーのように降り注ぐ高城回廊を歩いています。

高城回廊は、諫早公園、高城公園、諫早図書館、御書院などを水と緑で結ぶ、一周約1.3キロメートルの情緒豊かな散策路。

木製のチップで舗装されていて、一歩ごとに柔らかく心地よい感触が、足の裏を優しく包み込みます。

とはいえ、今年の夏は暑すぎました。

ときには蜃気楼が現れ、ときには熱中症一歩手前の幻が現れ。

そんなときに、この回廊横を流れる水路に目を向けると、なんとも愛くるしいスポンの親子を見つけられることがあります。

その愛嬌たつぷりのしぐさとたたずまいは一時の涼と癒しを与えてくれました。

猛暑が過ぎ、蜃気楼や幻が現れることはなくなりました。

行楽に散歩に安心して外出できるシーズンです。

心地よい足の感触とスポンの親子を探しに高城回廊を散策してみませんか。

その際は、ぜひ美術・歴史館へ足をお運びください。

(山本貢)